

NGOトーク
理事が聞く

変わりつつある Bangladeshでの保育園の運営

Bangladesh保育園の会(B.N.S.A.) 事務局長 小田 孝さん & (特)名古屋NGOセンター理事 浅野 陽子

最貧国の一つと言われていたBangladesh。今では急速に工業化が進み、求められる保育園も変化しているようです。Bangladeshの保育園を支援する「Bangladesh保育園の会」事務局長の小田さんにお話を伺いました。

なぜ保育園が 必要なのか

浅野 立ち上げた経緯を教えてください。

小田 ナハー・カムルンさんというBangladeshの女性が名古屋の大学に留学した夫と来日して出産、生活のために働きだしました。彼女の実家は、大金持ちの家庭ではないですが、家にはお手伝いさんがいて、子守も頼める暮らしだったはず。ところが、言葉もわからない日本で、3人の子育てをしながら家事も仕事もしなければならぬわけです。その大変なときに「だいじょうぶ、まかせなさい。」と子どもたちを受け入れてくれた保育園に感激して、Bangladeshにも日本のような保育園をと1996年に「Bangladeshに保育園を建てる会」を設立しました。

バザー、Bangladesh料理、民族衣装の着付け教室などを開き、資金を集め始め2004年に借家で、保育園「JBアイ・キッズガーデン」を設立しました。職員3~4名でスラムなどの貧しい子どもたちを受け入れました。保育時間は朝8時から遅い子で夜8時まで、間におやつ、昼食をはさんでいます。その後、名称を「Bangladesh保育園の会」に変更して、バザー、寄付金集めをして、ダッカの現地保育園を支援しています。

浅野 なぜ保育園が必要なのでしょう。

小田 お金持ちは子守を雇うでしょうし、女性が外で働いてお金を稼ぐこともあまりよく思われていない国です。都市部などで工場が増え、貧しい家庭が共働きをしないと暮らしていけないなかで、子どもを預かる施設がどうしても必要になってきています。

厳しい 保育園の運営

浅野 保育園の運営で気を付けていることはありますか。

小田 高収入の働く女性の保育園需要も高いので、豊かな家庭の子どもを高い保育料で受け入れると経営が楽なのですが、貧しい家庭の子どもだけを受け入れています。豊かな家庭の保護者が衛生面や「しつけ」などで貧しい家庭の子どもと一緒に保育することを嫌がるため、両方の受け入れはできません。確かに住んでいるところを見ると、その生活はマンションと避難民のテントのような差があります。

浅野 保育料はいくらですか？

小田 1か月300タカです。子どもを預けにきたお母さんにいくらで働いているのか聞いたところ、妻がお手伝いさんで



保育園の子どもたち



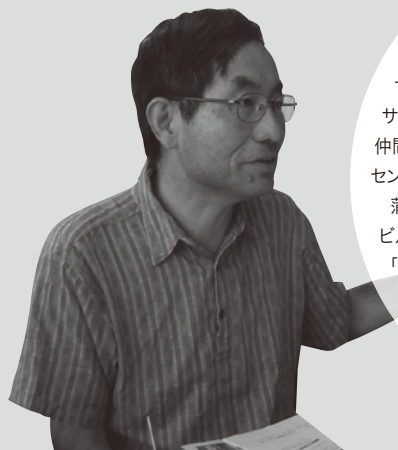
保育園を訪問

おだ たかし
小田 孝

名古屋NGOセンターの「地球市民フェスタ中部」でエコ料理レストランプロジェクト、クラシックコンサート、NGOスタッフをめざす人のためのシンポジウムなど仲間といるやりました。「現場に行こう訪問ツアー(NGOセンター事務局企画)」の実行委員会も長を行いました。蒲郡の市民団体が実行委員会を作り、「ココラットさんのビルマ講演会」、「セイブ・イラク・チルドレン名古屋講演会」「グラム・バンガラコンサート」を開きました。また、バンガラデシュ友好協会の運営委員になり、事務局長の松井さんに勧められて「バンガラデシュに保育園を建てる会」の活動を始めました。

あさの ようこ
浅野 陽子

公益財団法人にて地場産業再生のための商品開発プログラム海外プロジェクトに従事。2010年より日本国際飢餓対策機構職員、愛知事務所勤務。コミュニティー開発支援に携わり、アフリカ・アジア各国を訪問。



1か月1,600タカ、夫がリキシャ曳ぎで3,000タカ、家賃は水も電気もないバラックが2,000タカでした。一方でナハーさんの子どもの私学授業料が一人月3,000タカと聞きました。(1タカ=1.3円)

浅野 保育料はちゃんと払ってもらえますか？

小田 払わないまま来なくなる子どももいます。しかし、保護者が払える保育料金額では運営がほとんどまかなえないのが保育園です。本来は、公共的な支援がなければ困難な施設です。現在は、日本からの支援や積み立てた基金の利息でまかなっています。働く女性のためには、こんな施設が必要だねと知ってもらい、広がるきっかけになればと願っています。

浅野 「立ち退くので移転先を探して

います」とブログにありましたが。

小田 平屋のバラックを借りていましたが、コンクリートの高層住宅に立て替えるため立ち退いて、移転先が見つからないままナハーさんの自宅で1~3歳の子ども10~16名に減らして継続しています。住宅価格がとんでもない高騰で移転先が見つかりません。

新興国としての バンガラデシュ

浅野 今後どういう展望をお持ちですか？

小田 バンガラデシュに合ったかたちで、貧しい子どもたちの家庭を支える保育を続けたいです。ただし、どうすればいいか答えがあるわけではありません

が。保育は母親を取り巻く経済社会状況により、そのかたちが変わるものです。今、バンガラデシュは、貧困国から新興国に変わってきています。テレビや冷蔵庫が飛ぶように売れて、道路は車であふれて大渋滞が日常になっています。しかし、豊かな都市と貧しい農村、同じ都市の中での貧富の差は激しいものになり、貧しい人は取り残されたままです。この国のNGOはマイクロクレジットや校舎を建てない教育支援制度など、お金でなく知恵と工夫を生み出し、成果を上げてきています。必要だけれど答えのない取り組みだから、現地に学びながらこの保育園に寄り添って進むのかなという感じです。

浅野 ありがとうございます。

(担当:丹羽)



急速に進む都市化



一方でバラックに住む人も

団体概要

**バンガラデシュ
保育園の会**
(Bangladesh Nursery
School Association=B.N.S.A)

代表者名 伊藤悦子
〒446-0004
愛知県名古屋市長和区広瀬町2-6-7
TEL/FAX:052-741-5149
E-mail:itou@rokusou.jp
http://blog.goo.ne.jp/bnsa
連絡担当者:小田孝